奥播磨 古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる 2016.7.20.

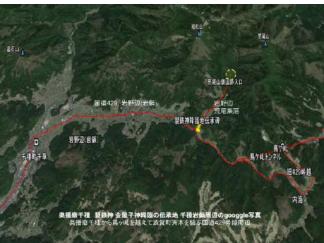














古代の製鉄神 金屋子神経臨の伝承地の碑が建つ国道 429 号 岩鍋荒尾集落の入り口 右手奥に近世の鉄山跡が眠る荒尾山が見えている 2016.8.20.

.中国山地の峰が連なる古代からの奥播磨の製鉄地帯千種に是非訪ねたい製鉄遺跡がある。

中国山地から南へ流れ下る千種川水系と揖保川水系に挟まれた源流部一帯の谷筋には 千種鉄・宍粟鉄と呼ばれる古代からの たたらの郷 たたら跡が点在する。

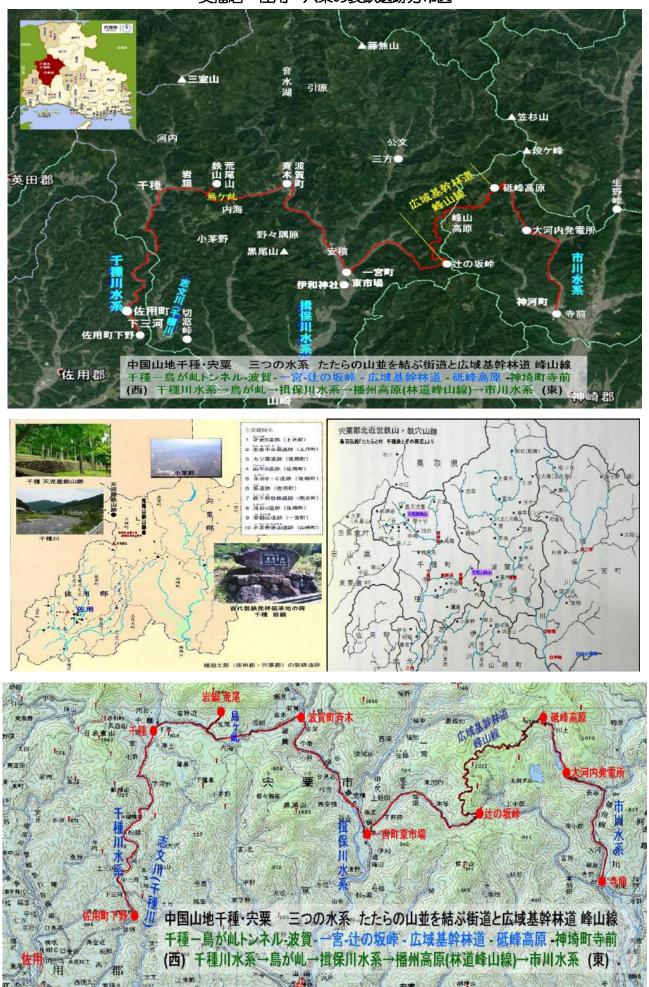
二つの川を西の千種から鳥ヶ乢の山並みを隔てて東の波賀町斉木へ結ぶ国 道429 号線。 古くからのたたらの郷を結ぶ街道である。

その千種側から鳥ヶ乢を越える峠道にかかる荒尾山の麓 荒尾集落の入り 口に「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」の碑があり、 また すぐそばに、 10年ほど前から荒尾山鉄山跡の案内標識が立っている。

この国道 429 号を通るたびに気になり、資料も読んだこともあるのですが、 たたら跡の現場に立ったことはなし。 ここから、荒尾山へ登る道が紹介されるようになり、その山歩きの記録の中に たたら跡が紹介されているのを 幾つが見つけ、 道筋が分かったので ぜひ出かけようと。

7月20日早朝 山中の様子がよくわからないので、朝早く飛び起きて ワクワクで出かけてきた久しぶりの古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地千種「岩鍋」。 やっと「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯でした。

奥播磨 佐用・宍粟の製鉄遺跡分布図



◆ 大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)近世の荒尾鉄山遺跡









以前から国道 429 号線鳥ヶ乢の山越え道を通る毎に気にかかっていましたが、緑に包まれた山中に静かに残っていました。 夏の真っ青な空に堂々とした姿をくっきりと見せる鳥が乢の山々。緑の山中を流れ下る谷川 たたらの郷 岩野辺。 荒尾の集落の奥 杉木立に包まれた荒尾山の林道に分け入ると 水しぶきを上げる谷川に沿って 幾段にも並んだ石組みが 現れた。遺跡入口には、足元に小さな石仏が祀られて大岩が神々しく鎮座し、背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、 一層 この一帯が「古代製鉄神 金屋子神降臨伝承地」との強い結び付きを感じました。



古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千草岩鍋にある荒尾山鉄山製鉄遺跡 2016.7.20. うれしいスしぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。 遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。 国道 429 号線の街道筋からは見えてこない 素晴らしいたたらの郷がひっそりと縁に包まれてありました。

出して残りの砂鉄を大勢の女の人がカマスや粉鉄負いで荒尾山へ戸時代から明治の初年頃まで操業したようです。河内の高耀鉄山が の土地は個人の所有地で開発計画もないところから、発掘調査も こは千種町岩野辺字荒尾にあるところから「荒尾鉄山」と称し って運んだのを見たという話が残っています。

十分に知られていません。

だ石碑が建っています。 ら上って来た正面の大きな岩の下に雨を避けるように地蔵さんを

たら場への道と新しい林道の間に墓地がありますが一基だけ 二河国松平荘常蔵」と読み取れる石碑があり、人々の交流の広さが かんの紀の国屋ではない)の二人が山内の安全やら良鉄量産を 主は大阪の泉屋(後の住友財閥の祖)と曾根(高砂市)の紀国屋 しその三十六年後には近代製鉄に押されて閉山となっています。 したようです。嘉永三年(一八四九)幕末の頃に建てています。 (文責者 上山



荒尾鉄山遺跡見取図

荒尾山林山南人口

製鉄神降臨地伝承碑

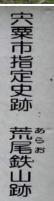


岩野辺自治会









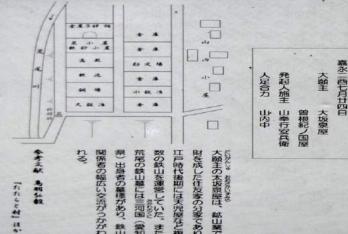
所在地 宍粟市千種町岩野辺字荒尾

指定年月日】昭和五十七年三月五日

) 荒尾集落から川沿いを五百メートルほど登った山中に石垣が残る荒尾鉄山は 高殿(たたら)、勘定場(事務所)、砂鉄・炭小屋(材料庫)、山内小屋(社宅)

程の通路が貫通し、道の左右に作業の順序に合わせて施設が配置されている 県史跡の天児屋鉄山跡に比べるとやや小規模であるが、中央を幅二メートル など、複数の建物群で構成された製鉄施設の跡である。 宗特徴的である。

期が入る地蔵菩薩の供養碑が立てられており、以下の銘がみえる。 荒尾鉄山の正確な操業期間は不明であるが、 おおむね江戸時代中期から明治 時代前期までと推定される。鉄山跡の入口には、嘉永二年(一八四九)の年



江戸時代後期には天児屋など複 財を成した住友家の分家であり、 大願主の太坂泉屋は、鉱山業で

関係者の幅広い交流がうかがわ 県)出身者の墓標があり、鉄山 荒尾の鉄山幕には三河国(愛知 数の鉄山を運営していた。













ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」 営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで 鉄が吹かれ たのか?」 興味津々でした。

緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。本当に久 しぶりに見る緑の中にうずもれたたたら跡 心地よい空間でした。

- ◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間代された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。
- ◎ ただ あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つが見つけることができました。 荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中 余計に神々しく、遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を 思わせ、一層 この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じました。

なお、登山者の記録にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、 見つけられませんでした。

(後日 千種町に照会しましたが、もう 今では祠跡はわからないでしょうということでした) 遺跡を後にして、荒尾集落を抜け、国道 429 号の集落入り口までもどって来ました。



このすぐ東の鳥が乢をトンネルで抜けて、揖保川水系の波賀町に抜ける。 この「乢」 不思議な地名であるが、千種周辺には「乢」とつく地名が多く、稜線越えの「峠」につけられた地名だという。

トンネルができるまでは鳥ケ乢の山の上まで登って、波賀町へ超える。 難度がかつて超えたことはあるのですが、トンネルができてからは越えたことなく、久しぶりに 鳥ケ乢の山の上の峠まで行ってきました。







古くからの街道筋であることを示す「峠」の伝承が残っている鳥が乢



7月20日 朝早く飛び起きて ワクワクで出かけてきた久しぶりの千種のたたら跡 古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯。 うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。 遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。 国道 429 号線の街道筋からは見えてこない 素晴らしいたたらの郷がひっそりと緑に包まれてありました。 千種鳥ヶ山の山並の山裾に広がるたたらの郷 岩野辺の田園を眺めながら千種の街へ下ってゆく。

奥播磨千種 製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡 大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋) 荒尾鉄山遺跡を訪ねる 2016.7.20.



ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神経師の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」 営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで 鉄が吹かれ たのか?」 興味津々でした。また、この製鉄遺跡が、別子の銅山開発で発展し、財閥になった住友の流れの泉屋の分家、泉 屋理助家が千種などで広く鉄山経営をしていたその千種の鉄山の一つであることにも。

住友グループの住金も新日鉄のグループに入って 住友グループから遠くなってしまって、鉄の痕跡が消えていきそう。 相互に混じり合わぬ金属の水と油と 言われる鉄と銅。 でも銅鉱石には常に鉄鉱石成分が混じり隣り合う金属でもあり、 また 別子銅山でも銅から鉄の取り出しを試みたことがあると聞く。そんな金属商 泉屋の系譜の中にも、鉄商がある。 でも 泉屋と鉄のかかわりについてはよくわからず、住友の近代製鉄として取り上げられてきた。 でも この千種ばかりでなく、中国山地のたたらの里には ほかにも幾つか 泉屋の痕跡が残っている。 鉄商がどんな位置づけだったのかと 興味を抱いています。

緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。 遺跡は私有地のためなのか、まだ詳細調査されぬままのようです。

- ◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間伐された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。ただ あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つが見つけました。
- ◎ 荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中 余計に神々しく 遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する 磐 磐座を思わせ、一層 この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じています。そして、この入り口の大岩の下にある祠の地蔵尊の碑の裏には この鉄山の安全や繁栄をを願う願主 泉屋の名が刻まれている。

鉄」と「銅」は常に隣り合う金属・鉱石であり、金属取り出しの製錬にも共通技術があったはず。

「分家とは言いながら技術の展開の中で、泉屋の分家が 鉄商を一括して担ってきたのではなかったか??」と 常々思いを巡らしてきました。

「鉄」と「銅」の近い関係を視点に 住友・泉屋が担った地域の産業育成・地域振興の役割などについても さらにたたら跡がベールを脱げば 明らかになってゆくのではないかと期待している。

近い将来この遺跡や周辺がきっちり調査され、この岩鍋の地の製鉄伝承が もっとクリヤーになっていくこにも期待したい。 暑いが、快晴の午後 たたらの郷千種の風を受けながら 久しぶりにたたら遺跡跡に立てた満足感一杯で千種を後にする

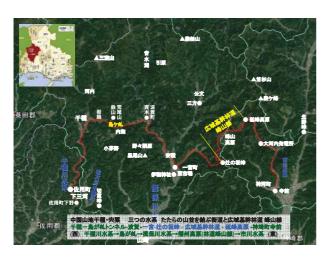
2016.7.20. 午後 満足感一杯で 千種川沿い原チャリを走らせながら

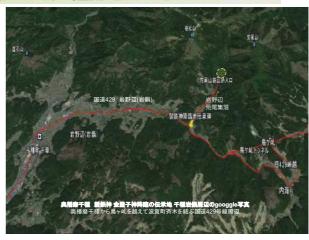
参考資料

- 1. 鳥羽仏殺氏著「たたらと村 千草鉄とその周辺で」 1997.3.10. 千種町教育委員会
- 2. 【和鉄の道・Iron Road】 by Mutsu Nakanishi 西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪 関連掲載
- 1. 古代鉄の大王国 播磨国 「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地 https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf
- 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.19.
 千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
 https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1308chigusa00.htm
- 3. 奥播磨 千種川に注ぐ志文川源流 たたらの郷 宍粟市山崎町小茅野(こがいの)集落を訪ねる 2010.7.20 . https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf
- 4. たたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6.21. 奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花の Walk https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf
- 5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形 西播磨 砥峰高原 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007.10. https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf
- 6. 産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて 一宮町 2004.6. https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf
- 7. 「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡深訪 一宮町 2004.2. https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf
- 8. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003.11. https://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺(岩鍋)近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾山鉄山遺跡を訪ねる 2016.7.20.

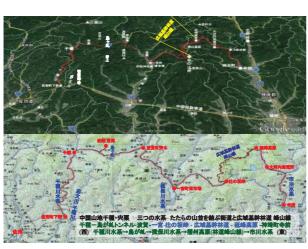






















































2. 千種から西へ国道429号 岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾 荒尾山鉄山遺跡へ



・ 日本 ・ 日

「元にの即が凹止が下で、こうが東風でいてはかっと、山へい 千種を訪れるたけ、得少にはいつ意画は20号。 「古代接鉄神・金屋子神伝系の地」の降や荒尾集落入口にある「荒尾山鉄山道静静」の案内標識を眺めるのですが、荒尾山のたたら 勝に足を踏み入れたことはなく、号回が初めて。 興味津々で岩野辺川沿いに広がる岩野辺集落の田園風景を楽しみながら千種から東へ。



































































































